

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

臨時休校期間中ですが、学童を利用する1～3年生の児童が午前中は学校、午後は学童で過ごしています。児童たちは個々の課題に取り組んだり、外で運動をしたり、学校再開に向けて花壇の手入れなどを行っています。

梅園小学校

臨時休校中の学校の様子は、午前中学童に通う児童が学習に訪れています。「3密」に気をつけながら、それぞれの課題に取り組んだり、休み時には外で遊んだりしています。学校も早く、子供たちの元気いっぴいな声が響き渡るのを待ち望んでいます。



越生中学校

臨時休校が延長となり、クラスごと時間を設定し、4月中に郵送した3回の課題の確認と、各教科で使う新しいワーク・課題を配付しました。左上の写真は、課題で提出されたノートです。



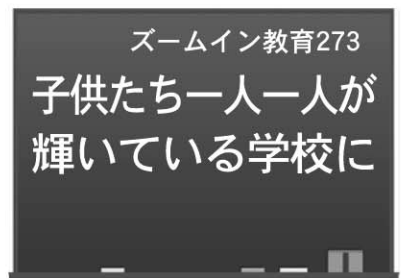
おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

- ・身に付けた知識・技能を活用する
- ・学習の基礎、基本を身に付ける
- すすんで学び合う子

本校は明治六年の開校以来、今年で百四十七年を迎えます。長い伝統と歴史を持つ本校ですが、各教室に大型テレビを配置し、屋上には太陽光発電を設置するなど、最新の設備を誇っています。

本年度は新型コロナウィルス対応により5月末日までは休校中ですが、登校再開後は充実した教育環境の中で、職員一同『子供たち一人一人が輝いている学校』を目指し、以下の学校教育目標をもとに、日々の教育活動に取り組んでいきます。



越生小学校



- ・家庭学習をしっかりと行う
 - 仲良く助け合う子
 - ・順番やきまりを守る
 - ・思いやりのある言動ができる
 - ・みんなと協力して過ごす
 - 元気にやり抜く子
 - ・心身共に健康で、安全に生活できる
 - ・目標に向かって、最後まで頑張る
 - ・次に生かすために振り返る
- これら学校教育目標の実現のために、
- ① 確かな学力の育成
 - ② 豊かな心と道徳性の育成
 - ③ 心身共に健やかな児童の育成
- を重点目標として掲げていきます。本年度もどうぞよろしく願います。

越生浪漫

No. 137

星野家住宅

星野家住宅（上町）が、世界無名戦士之墓とともに、令和2年4月3日付けで登録有形文化財に登録されました。星野家は群馬県多野郡藤岡町（現藤岡市）で代々続く名家で、明治30年代に越生に進出して、三井呉服店（のちの三越呉服店）の生絹（着物の裏地に使う裏絹）買継出張所を開店しました。



越生絹市場『埼玉縣寫真帖』大正11年より

養蚕・製糸・絹織物は、古くから越生一帯の重要な生産物でした。農家は副業として、自家産の繭から糸を繰り、手機で生絹を織っていました。今市村（現越生町大字越生）の月6回の「二七の市」でも江戸時代から絹取引が行われていました。

明治33年（1900）には、越生在住の25名の生絹仲買商によって株式会社越生生絹市場が設立され、現在の絹会館の場所に二棟建の建物が建てられました。発起人の中には、金子家住宅（登録有形文化財）の建主島野伊右衛門、岡野家住宅（登録有形文化財）の建主長島文吉がいます。

星野商店

隆盛を極める絹市場の入口脇に、明治41年（1908）、生絹仲買商・星野商店の店舗兼住宅が建築されました。

明治34年の『埼玉県営業便覧』から、現在地に店舗を構える前は、県道を挟んだ少し離れた場所で商いを行っていたことが分かりました。当時の新聞が「驚くべき巨額」と伝える取引を続ける絹市場の近くに店舗を移し、事業拡張を図ったと考えられます。

建物からは、創建年代を示す棟札や棟木銘は見つかっていませんが、明治41年の普請帳が残されており、地所購入の年月日、普請金額なども明らかになっています。

建物の構造と特徴

星野家住宅は、見世（店舗）・居室・袖蔵が一体となった木造2階建ての建物です。出桁造りとよばれる、軒が



登録有形文化財「星野家住宅主屋及び袖蔵」 外観



袖蔵の観音扉

大きく前面に張り出された仕様は、商店の格式を表すもので、岡野家住宅や金子家住宅にも採用されています。

主屋西側に配された袖蔵は商品・什器の収納蔵で、防火壁の役割も果たしています。漆喰仕上げの壁と、1階と2階の間に設けられた観音扉は、江戸時代の大火を踏まえた延焼防止の手法です。観音扉は左右の扉が隙間なく組み合う仕組みで、密閉性が高められています。

袖蔵に設けられた観音扉は、掛子と呼ばれる段を四段にし、漆喰を塗った本三重（掛子四段塗り）です。掛子の段数は蔵の格付けともなり、本三重は格式高いものでした。

県道から袖蔵の鬼瓦に注目すると、三越の店章「丸越」が見えます。鬼瓦の後ろには影盛（鬼瓦を大きく見せるための瓦）が付けられています。影盛付きの瓦は蔵造りに多く見られ、川越の蔵造りでも見ることが出来ます。また、鬼瓦の下にある拝み巴には、星野の文字が刻まれています。

主屋1階の居室部分は、見世とは、障子が取外し出来る大阪格子で区切られ、近代的天窓を設けるなど、居住性が考慮されています。電話室も遺されています。

当時の上層商家の典型的な外観と間取りを持つ星野家住宅は、金子家住宅や岡野家住宅とともに、越生の最盛期を伝える重要な建造物です。



袖蔵の鬼瓦と拝み巴